すぎなみ 2022

ピースフォーラム

戦争・原爆・原発・沖縄・平和と憲法を考える展示とイベント

報告集

平和憲法を生かし
核も戦争もない世界の実現へ！

２０２２年８月６日（土）・７日（日）

会場：杉並 産業商工会館 展示室・集会室

すぎなみ
ピースフォーラム 2022 報告集

目　　次

はじめのことば
ピースフォーラム実行委員会事務局長 矢内　一弘 …… 2

Ⅰ　各展示コーナーの報告
① 憲法９条は世界の宝 …… 3
② 原水爆禁止運動発祥の地・杉並 …… 5
③ 広島・長崎　原爆と人間 …… 6
＊被爆者人間シリーズ ⑪サーロー節子 …… 8
④ 核兵器禁止条約 …… 11
⑤ 杉並にも戦争があった …… 12
⑥ 沖縄復帰５０周年 …… 14
⑦ ウクライナ戦争から考える …… 15
⑧ リアルに考えてみよう　戦争と原発 …… 16
⑨ 平和を考える絵本 …… 17
⑩ 平和の思いを短歌に …… 18

Ⅱ　イベントの報告（２つのドキュメンタリー映画）…… 19
Ⅲ　参加者の感想文から …… 20
Ⅳ　資料編
① 事業決算書 …… 21
② 展示室設営図 …… 22
③ 実行委員会の活動と反省 …… 23
④ チラシと実行委員メンバー …… 24

２０２２年　すぎなみピースフォーラム

すぎなみピースフォーラム実行委員会事務局長　矢内 一弘

今年２０２２年は、歴史に刻まれるウクライナ戦争がはじまりました。２月に始まったロシアのウクライナ侵略は、いまだに終結が見えません。２１世紀になぜ国家による軍事侵攻が起こるのか、想像もできませんでした。また、核兵器の威嚇もあります。

そういった戦争の現実が続く中、「戦争はもうイヤだ　NO WAR！」「命（ぬち）どぅ宝」という叫びのもと、『平和憲法をいかし、核も戦争もない世界の実現へ』をめざし、ピースフォーラムの開催ができました。

今年もコロナ感染の拡大もあり、実施日を２日間に短縮して８月６日（土）・７日（日） に杉並商工会館で実施しました。

展示内容は、①憲法と核禁条約　②原水禁署名運動発祥の地 杉並　③広島・長崎、原爆と人間シリーズ・１１回「サーロー節子さん」　④核兵器禁止条約　⑤杉並にも戦争があった　⑥沖縄復帰５０周年　⑦ ウクライナ戦争　⑧戦争と原発　　などをテーマに行いました。

講演は行わず、映像上映として、１．ヒロシマへの誓い－サーロー節子とともに－　２．カメジロー　－沖縄の青春－　を企画しました。両映画とも関心が高く４０名近くの方が参加してくれました。

参加者の感想として、こういう平和運動の大切さ、とくに核兵器の廃絶を目指さなければならないことを実感した、との声が多く寄せられました。

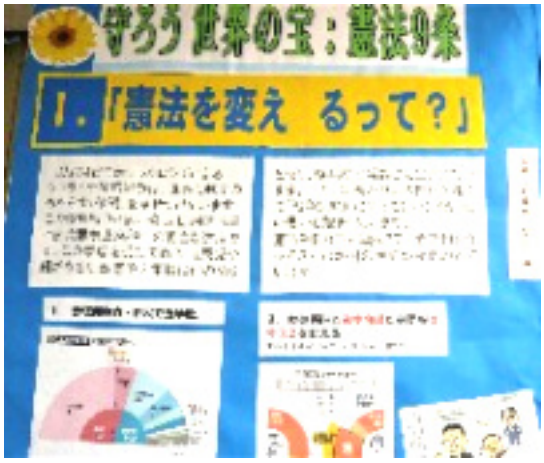
あらためて戦争の現実・平和の大切さを実感する８月になりました。

〔1〕テーマ別展示の報告

① 憲法九条 世界の宝

2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵略戦争と核の脅しは、国連憲章と核兵器禁止条約への明白な違反です。この事態を受けて政府自民党や維新は改憲と大軍拡の大合唱、核共有論まで出ています。一方、戦争の「惨禍」を目前にして、国民は世代を超えて「戦争は絶対ダメだ」との思いも強めています。憲法9条の下戦後77年間平和を守ってきたわが国は今戦争か平和かの岐路に立っています。

Ⅰ.「憲法が変わるって？」



参院選後自民、維新、公明、国民民主の改憲四派が衆参両院で改憲発議に必要な 3分の2 以上を占めた。自民や維新の狙いは「9条の2」を設けて自衛隊を書き込み、9条の平和主義を無力化すること。しかし、国民の多数は「改憲」より「景気や雇用対策」「年金・介護・医療の充実」を望んでいます。9条改憲NO！全国市民アクションによる「改憲発議を許さない」の署名運動。「5・3憲法集会」には3．5万人、足立区に都内初の「9条の碑」建設、安保法制強行に抗議して毎月3の日のスタンディング。杉並では「9条変えるな！市民アクション」を立ち上げてデモや署名活動に取り組んでいる。被団協の木戸季市事務局長は6月の「核兵器禁止条約締約国会議」で「九条の存在が国民の命を守る。武力は武力を招く。行きつく先は核兵器だ」この言葉の重みをかみしめたい。

Ⅱ.「ウクライナ戦争から学ぶもの」―

「武力で平和は守れないー」ロシアの侵略によりウクライナは焦土となり、人々は近隣諸国へ避難している。国連安全保障理事会は会合を開き、ロシアを非難する決議を提案、80か国が賛同したがロシアの拒否権で否決され、その後も国連を中心に対話による解決を追及している。紛争は軍事対軍事では解決できない。国際世論を拡げてロシア国民を動かし、戦争を止めなければなりません。

「ロシアのウクライナ侵略は90年前の日本の侵略と同じ」

年表によって両者を比較し、戦争と平和についての考察を加えた。歴史は繰り返されるというが、同じ過ちを人類は反省することで止めることができるはず。

Ⅲ.「軍拡で暮らしが押しつぶされる」

今私たちが一番望んでいるのは現在も将来も安心できる暮らし。多くの人がコロナで疲弊し物価高にあえぎ、日々不安を募らせている。人を殺す武器に税金を使うのか、人を生かす予算に税金を使うのか、人類的課題でもある。軍拡で暮らしが押しつぶされるのは目に見えている。

担当：（赤坂和子、佐藤康尚、早川美和子、矢内一弘、山田ヒサ江）

② 原水禁署名運動発祥の地：杉並

情勢を反映した「展示パネル」を新たに追加

昨年、完成した14枚の展示パネルに新しいパネル1枚を新たに追加し、15枚のパネルを展示しました。2021年1月、人類史上はじめて、核兵器は違法とする核兵器禁止条約が発効するという画期を成しました。しかし、その後にウクライナに侵略したロシアが核兵器による威嚇を行い、国際社会は核の脅威にさらされました。こうした緊迫した情勢のなか、本年6月、核兵器禁止条約第1回締約国会議が大きく成功し、国際社会は団結を勝ち取ることができました。追加された新しい1枚のパネルは、こうした情勢を反映したパネルとしました。

展　示　説　明

1954年3月1日、太平洋のビキニ環礁でアメリカの水爆実験により第五福竜丸乗組員23名が死の灰を浴び、久保山愛吉さんが亡くなり、衝撃が日本列島を走った。しかし、日本国民は黙っていなかった。その2か月後には杉並区区議会では党派を超えて水爆禁止を決議。署名運動の母体である原水爆禁止署名運動杉並協議会が結成され、署名開始、1か月で26万筆を超え、最終は28万筆。（人口39万の7割）署名は日本全国に広まり、1955年には3200万筆に達し日本の有権者の過半数が署名。この力が1955年8月の第1回原水禁世界大会開催となり、さらに、世界的な運動と発展した。被爆者団体も結成され長きにわたり運動が継続され、ついに昨年1月に、67年の時を経て悲願であった核兵器禁止条約が締結された。ロシアのウクライナ侵略という逆流のなかで、本年6月に核兵器禁止条約第1回締約国会議が開催された。「核兵器の使用、威嚇も国際法違反、核なき世界実現のために歩みを止めない」と、逆流を跳ね返すための力強いメッセージを世界に向けて発信した。

【15枚のパネルとそのテーマ】

◆アメリカのビキニ水爆実験で第五福竜丸が被災 ◆第五福竜丸は「危険区域」の外で操業していたのになぜ被災？ ◆第五福竜丸無線長久保山愛吉さん逝く ◆漁業被害と「早期決着」 ◆魚商の立ち上がり・原水爆禁止を掲げて ◆買出人水爆被害対策市場大会・水爆実験をやめてください ◆杉並公民館と女性の活動 ◆原水爆禁止署名運動のプロローグ ◆原水爆禁止・杉並区議会決議 原水爆禁止・署名運動杉並協議会結成 ◆「水爆禁止」杉並全区で署名運動はじまる ◆署名総数は1年後には28万筆に到達 杉並区人口39万人の7割 ◆杉並から全国へ広がる署名運動 ◆原水爆禁止世界大会開催される 3200万名の署名集まる ◆核兵器禁止条約2021年1月22日発効・・・歴史の大河は流れ・67年の時を経て結実 ◆核兵器のない世界へ・逆流の+なかで核兵器禁止条約第1回締約国会議が大きく成功

（金田 克彦）

③ 広島・長崎・原爆と人間

Ⅰ、原爆被害の実相を伝える「原爆と人間」パネル

毎年、このコーナーの展示は、杉並に住む広島・長崎原爆の被爆者団体、「杉並光友会」が担当しています。 ＊被災地図のパネル ＊広島・長崎の原爆被害の惨状写真 ＊被爆者の描いた、心にやきついた原爆の絵 ＊光友会で工夫して作成した「原爆が地上から何メートルの高さで炸裂したか」を東京スカイツリーの図に照合した展示が今年も注目されました。

広島の基町高校の生徒が描いた原爆の絵のパネル 今年初めて展示されました

被爆者の方が証言活動を行う際に言葉では伝わらない場面や状況を、絵によって伝える「次世代と描く原爆の絵」プロジェクト。2004年から広島平和記念資料館 が主催しています。

広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの生徒たちは 2007 年からこのプロジェクトに参加し、その活動は上級生から下級生へと代々受け継がれています。

制作は 毎年 10月ごろに証言者（被爆者）の方々と生徒全員が集まって顔合わせ会を行い、被爆当 時の様子を聞きながら描くべき場面の確認と方向性を決定。その後は個別の話し合いで、 絵の構図や色など細かく確認しながら進め、約9カ月かけて1枚の絵を描き上げます。例年は8月と 12 月に原爆の絵を披露する場があり、ギャラリートークで生徒自ら絵に込めた想いを発表してきました。

＊上の写真のようにイーゼルにキャンバスをのせ、油絵具で時間をかけて制作しています。制作過程で、証言された方にも見てもらい、修正したり加筆したりしてフォルムも色彩も深みのあるものとなっています。（展示以外の絵も2点掲載） T.

Ⅱ、被爆者人間シリーズ(11) サーロー節子

「同情は求めていません。人々に行動してほしい。
そのために私は語り続けるんです。」

〈経歴〉

●1932年(昭和7年)1月3日 広島県広島市南区で生まれる ●広島女学院(現広島女学院中学高等学校)に進学 ●学徒勤労動員により大日本帝国陸軍第2総軍司令部で暗号解読助手となった初日の1945年(昭和20年)8月6日に広島市への原子爆弾投下により、爆心地から1.8㎞離れた司令部で被爆(被爆時13歳) ●広島女子学院大学卒業後、1954年米国ヴァージニア州のリンチバーグ大学に留学し、社会学を学ぶ ●1955年カナダ出身の英語教師と結婚、トロントに移住 トロント大学で、社会福祉事業の修士号を取得、ソーシャルワーカーになる ●トロントで、友人らと広島・長崎の被爆者写真のパネルの展示など世論を喚起する活動を始め、カナダ・アメリカ・イギリス・日本などで被爆体験を語り、核廃絶を訴え続けた ●2017年にICAN(International Campaign to Abolish Nuclear Weapons,核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を受賞し、その際に事務局のベアトリス・フィンと受賞スピーチを行った

〈ノーベル平和賞授賞式でのスピーチ全文〉

両陛下。ノルウェー・ノーベル賞委員会の高名なメンバーの皆さま。ここにいる、そして世界中にいる運動家の仲間たち。淑女、紳士の皆さま。

ICANの運動を形づくる傑出した全ての人々に成り代わってベアトリスと共にこの賞を受け取ることは大変な栄誉です。私たちは核兵器の時代を終わらせることができる、終わらせるのだという、かくも大きな希望を皆さま一人一人が私に与えてくれます。

被爆者は、奇跡のような偶然によって広島と長崎の原爆を生き延びました。私は被爆者の一人としてお話しします。70年以上にわたって私たちは核兵器の廃絶に取り組んできました。

私たちは、この恐ろしい兵器の開発と実験から危害を被った世界中の人々と連帯してきました。ムルロア、エケル、セミパラチンスク、マラリンガ、ビキニといった長く忘れられた地の人々。土地と海を放射線にさらされ、人体実験に使われ、文化を永遠に破壊された人々と連帯してきました。

私たちは犠牲者であることに甘んじることはありませんでした。灼熱の終末を即座に迎えることや、世界がゆっくりと汚染されていくことに対し、手をこまねいていることは拒否しました。いわゆる大国が、無

謀にも私たちを核のたそがれから核の闇夜の間際へと送り込むことを、恐怖の中で座視することは拒否しました。私たちは立ち上がりました。生き延びた体験を分かち合いました。人類と核兵器は共存できないのだと声にしました。

今日、この会場で皆さまには、広島と長崎で死を遂げた全ての人々の存在を感じてほしいと思います。雲霞のような二十数万の魂を身の回りに感じていただきたいのです。一人一人に名前があったのです。誰かから愛されていたのです。彼らの死は、無駄ではなかったと確認しましょう。

米国が最初の原爆を私が住んでいた都市、広島に投下した時、私はまだ13歳でした。私は今もあの朝を鮮明に覚えています。8時15分、窓からの青みを帯びた白い閃光に目がくらみました。体が宙に浮かぶ感覚を覚えています。

静かな闇の中で意識を取り戻すと、倒壊した建物の中で身動きできないことに気付きました。級友たちの弱々しい叫び声が聞こえてきました。「お母さん、助けて。神さま、助けて」

そして突然、私の左肩に手が触れるのを感じました。「諦めるな。頑張れ。助けてやる。あの隙間から光が差すのが見えるか。あそこまでできるだけ速くはっていくんだ」。誰かがこう言うのが聞こえました。はい出ると、倒壊した建物には火が付いていました。あの建物にいた級友のほとんどは生きたまま焼かれ、死にました。そこら中が途方もなく完全に破壊されているのを目にしました。

幽霊のような人影が行列をつくり、足を引きずりながら通り過ぎていきました。人々は異様なまでに傷を負っていました。血を流し、やけどを負い、黒く焦げて、腫れ上がっていました。体の一部を失っていました。肉と皮膚が骨からぶら下がっていました。飛び出た眼球を手に受け止めている人もいました。おなかが裂けて開き、腸が外に垂れ下がっている人もいました。人間の肉体が焼けた時の嫌な悪臭が立ち込めていました。

このようにして、私の愛する都市は1発の爆弾によって消滅したのです。住民のほとんどは非戦闘員でした。彼らは燃やされ、焼き尽くされ、炭になりました。その中には私の家族と351人の級友が含まれています。

その後の数週間、数カ月間、数年間にわたって、放射線の後遺症により予測もつかないような不可解な形で何千もの人々が亡くなりました。今日に至ってもなお、放射線は人々の命を奪っています。

広島を思い出すとき、最初に目に浮かぶのは4歳だった私のおい、英治の姿です。小さな体は溶けて、肉の塊に変わり、見分けがつかないほどでした。死によって苦しみから解放されるまで弱々しい声で水が欲しいと言い続けました。

今この瞬間も、世界中で罪のない子どもたちが核兵器の脅威にさらされています。おいは私にとって、こうした世界の子どもたちを代表する存在となりました。核兵器はいつどんなときも、私たちが愛する全ての人々、いとおしく思う全てを危険にさらしています。私たちはこの愚行をこれ以上許してはなりません。

苦しみと生き延びるためのいちずな闘いを通じて、そして廃虚から復興するための苦闘を通じて私たち被爆者は確信に至りました。破局をもたらすこうした兵器について、私たちは世界に警告しなければならないのです。繰り返し私たちは証言してきました。

しかし、広島と長崎を残虐行為、戦争犯罪と見なすことをなお拒絶する人たちもいたのです。「正義

の戦争」を終わらせた！良い爆弾」だったとするプロパガンダを受け入れたわけです。こうした作り話が破滅的な核軍拡競争をもたらしました。今日に至るまで核軍拡競争は続いています。

今も九つの国が都市を灰にし、地球上の生命を破壊し、私たちの美しい世界を未来の世代が住めないようにすると脅しています。核兵器の開発は、国家が偉大さの高みに上ることを意味しません。むしろ、この上なく暗い邪悪の深みに転落することを意味するのです。こうした兵器は必要悪ではありません。絶対悪なのです。

今年7月7日、世界の大多数の国々が核兵器禁止条約の採択に賛成した時、私は喜びでいっぱいになりました。私はかつて人類の最悪な側面を目撃しましたが、その日は最良の側面を目撃したのです。私たち被爆者は72年の間、禁止されることを待ち続けてきました。これを核兵器の終わりの始まりにしようではありませんか。

責任ある指導者であれば、必ずやこの条約に署名するに違いありません。署名を拒否すれば歴史の厳しい審判を受けることになるでしょう。彼らのふるまいは大量虐殺につながるのだという現実を抽象的な理論が覆い隠すことはもはやありません。「抑止力」とは、軍縮を抑止するものなのだということはもはや明らかです。私たちはもはや恐怖のキノコ雲の下で暮らすことはありません。

核武装した国々の当局者と、いわゆる「核の傘」の下にいる共犯者たちに言います。私たちの証言を聞きなさい。私たちの警告を心に刻みなさい。そして、自らの行為の重みを知りなさい。あなたたちはそれぞれ、人類を危険にさらす暴力の体系を構成する不可欠な要素となっているのです。私たちは悪の陳腐さを警戒しましょう。

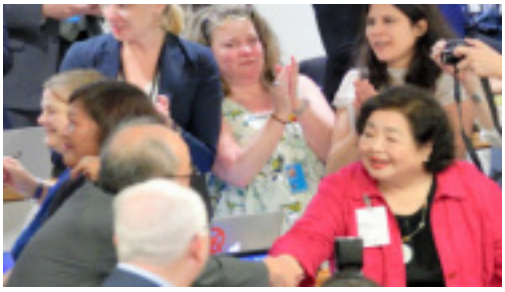
世界のあらゆる国の、全ての大統領と首相に懇願します。この条約に参加してください。核による滅亡の脅威を永久になくしてください。

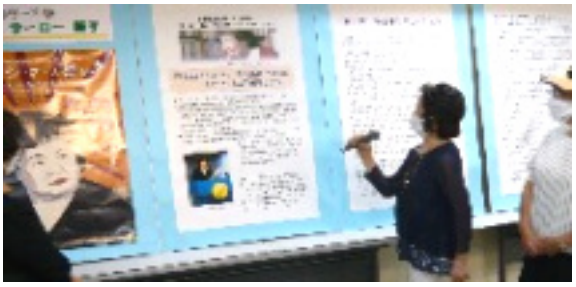
私は13歳の時、くすぶるがれきの中に閉じ込められても、頑張り続けました。光に向かって進み続けました。そして生き残りました。いま私たちにとって、核禁止条約が光です。この会場にいる皆さんに、世界中で聞いている皆さんに、広島の倒壊した建物の中で耳にした呼び掛けの言葉を繰り返します。

「諦めるな。頑張れ。光が見えるか。それに向かってはっていくんだ」

今夜、燃え立つたいまつを持ってオスロの通りを行進し、核の恐怖という暗い夜から抜け出しましょう。どんな障害に直面しようとも、私たちは進み続け、頑張り、他の人たちとこの光を分かち合い続けます。この光は、かけがえのない世界を存続させるために私たちが傾ける情熱であり、誓いなのです。

ノルウェー・オスロにて　2017年12月12日　（オスロ共同）　　文責：久保田 朋子





④ 核兵器廃絶へ日本の役割

核保有国と非核保有国との橋渡しとは

◎ 核兵器禁止条約への取り組み方

・日本政府は、核兵器禁止条約（2021）に参加せず、締約国会議（2022）にオブザーバー派遣もせず⇒橋渡しはできない

＜その理由＞

・日本は、米国の保有する核兵器の抑止力(核の傘)に依存しており、それを確実にするには米国が反対する核禁条約には参加できない

・日米安全保障条約（1952）で、米軍の矛の役割・日本の盾の役割自衛力）を担ってきたが、日米同盟の強化策で、集団的自衛権の容認もあり、自衛隊の米軍との一体化した共同訓練を増大させている

・核保有国は、核軍縮についてNPT条約（1970）で核の不拡散を目指しており、核兵器の全面禁止とは相いれない

◎ NPT条約と核兵器禁止条約の矛盾と両立

・NTP(核拡散防止)条約とは (1970年発効)　核抑止力を大前提

核保有国を5　ヶ国に限定、非核保有国が核兵器を持つことを禁止

核保有国の核兵器削減を義務づける

締約国191ヶ国＜インド・パキスタン・イスラエルは未署名　北朝鮮は脱退＞

・核兵器禁止条約（2021）　核廃絶を目指す「核兵器なき世界」

禁止した7つの原則＜開発・実験・製造・備蓄・移譲・使用・威嚇＞

“核戦争の恐怖”が現実化…ロシア・プーチンの脅し　核禁条約への違反行為

核戦争「唯一の解決策は 核廃絶」

◎ いま世界は、人類の死活に関わる大きな危機に直面している

人類は国連を中心に確実に戦争をしない世界に向けて進んでいる。そのことを、「核兵器禁止条約」の第一回締約国会議が6月に開催され、核抑止論を否定し廃絶をと呼びかけた「ウイーン宣言」を新聞記事等で紹介しました。

戦争をめぐる情勢は一見複雑ですが、人類が目指すべき方向はまさに「核兵器禁止」「戦争の違法化」にこそあると確信し、「憲法9条」を今こそ世界に！と声を大に訴えましょう！

核兵器をなくすと世界が決めた日

今年、2022年7月に大月書店から表題の一冊絵本が発行されました。子どもたちだけでなく、大人が読んでも勇気のでる内容となっています。核兵器禁止条約発効の記念として手元に置きたい一冊です。

A4型　43ページ　1700円　大月書店

著者の岩崎由美子さんと、イラストを描いたマリア・ペレス(TOTO)さんは、いずれも元ピースボートのスタッフとして、ICANのプロジェクトにも関わってきました。スタッフの川崎哲さんは監修を担当しています。この本は核兵器禁止条約をテーマとする、世界で初めての絵本です。核保有国の圧力をはねのけ、被爆者たちの声と市民の国際的連帯で誕生した画期的なこの条約を物語で伝えています。

ロシアによる戦争で核戦争の危機が現実味をおびてきた今、平和を願う世界の人々が力を合わせれば核兵器をなくせるという希望のメッセージを子どもたちに届けます。

核実験の被害は世界の人々におよんでいること。核兵器禁止は世界の人々のねがいであることを大きく展示してみました。　(矢内一弘・佐藤康尚)

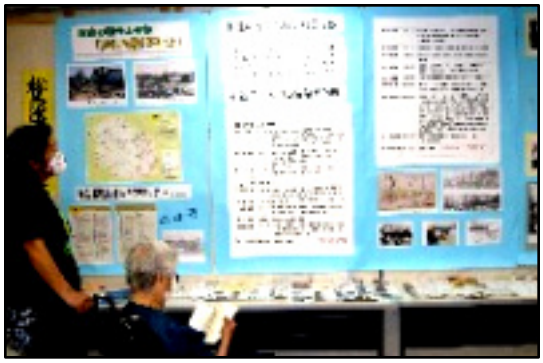
⑤ 杉並の戦争と平和

「杉並にも戦争があった」

松本清張没後30年

◆はじめに、長く杉並の浜田山に住み、1992年に亡くなった松本清張さん。今年が没後30年にあたることから、清張さん直筆の色紙を展示しました。1988年ころ、国際児童年杉並連絡会が編纂した「杉並にも戦争があった」をお渡ししたところ、1週間くらいして右のような達磨大師の絵(色紙)をいただきました。裏面に「杉並にも戦争があった」を貴重な資料として拝読しました」と墨書されています。平和運動をすすめる私たちにとって大切な宝物となっています。

杉並の空襲被害

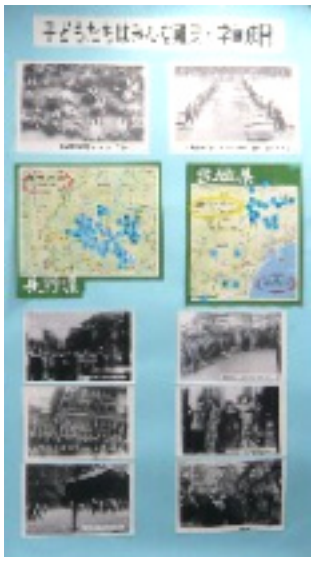


◆1944年から45年の敗戦まで、杉並では18回に及ぶ米軍による空襲がありました。区民の死者181名。消失した家屋11，840棟に及びます。展示では、18回の空襲の詳細を表にしてまとめました。

◆数少ない当時の写真も新たなものを加えて展示しました。インターネット上で見かけた右の絵は「馬橋の焼け跡風景」（スケッチ）と記載があります。作者はどなたか？この道はどこに該当するのか？遠くのかなり大きな建物は何か？陸軍気象部の建物か？おわかりの方がいらっしゃったら杉並ピースフォーラム実行委員会に連絡ください。

090－7263－8386　高木まで

学童疎開「子どもたちはみんな難民」



◆戦時中の学童は、特異な難民です。親からはなれ、集団での生活、食糧難で空腹の思い、のみやしらみ、病気の蔓延など大変な状況におかれました。杉並の児童は長野県と宮城県に疎開しました。各国民学校の疎開児童数を地図の上に添付し掲示しました。引率した先生たちも今は亡くなっています。

〈「杉並にも戦争があった」・92P 引率した溝部瑛子先生の手記 ・98P 鷹野歌子先生の記録文 ・101P〉

長野に疎開した学童の一人、音楽家の小林亜星さんも今年他界しました。「線路はいいな」 疎開した児童の思い 澤地晃栄さん の作文など是非見てください。

高木 たかし

⑥ 沖縄復帰50周年・続く基地の重圧

《 軍隊は住民を守らず 》

復帰50年にあたり、いまだ続く基地の重圧を除く要望する「建議書」をもって玉城デニー知事は上京した。50年前にも屋良朝苗知事が復帰にあたり基地の撤去を求める「建議書」をもってきたのだが、日本政府はこれをとりあげなかった。

今年の展示は、このことをふまえ「集団死の強制」と「オール沖縄」をとりあげた。

集団死を証言する写真

唯一戦場となった沖縄、島の各地にガマとよばれる鍾乳洞があり、戦禍を逃れて住民が避難した。そこに日本兵も逃げ込み、住民は排除されただけでなく、「自決」でなく、「集団死」が強制されたのです。「この手で姉の首をしめてしまった」と話す老人。「横たわる子のそばに火がつけられるのを見てしまった」と証言する老婦人。写真は今は老人だが幼き頃のこと語り、写真に写る苦悩。

「普通に暮らしているだけで暴力をうけ、命を奪われる・・・今も沖縄は戦世（いくさゆ）である」と戦後生まれの写真家である豊里友行さんは指摘し「沖縄が平和発信の地になることを夢見ている」と語る。そして「軍隊は住民を守らない」とも。

復帰協からオール沖縄へと

沖縄は1945年4月に米軍の上陸をうけ、6月23日に降伏。サンフランシスコ講和条約締結後も米軍占領下であった。とりわけ伊江島は島の大部分を占領され住民は土地を奪われ、「乞食行進」をするありさまであった。日本国憲法の適応をもとめ、ついに祖国復帰協議会が結成された。安保闘争、ベトナム反戦とも連帯、沖縄の日本復帰となった。ところが基地の重圧からは抜け出せなかった。

1995年の少女暴行事件、日本軍による集団死強制が教科書から削除されたことへの怒りのなかで、「オー

ル沖縄」が結成され、翁長知事の誕生となった。日本政府は「辺野古の新基地はいらない」「オスプレイの配備ノー」は沖縄の民意となっているにもかかわらず、無視し続けている。勝利への道は「決してあきらめないこと」が合言葉になり粘り強いたたかいとなっている。

（加藤 惠子・佐々木 征）

⑦ ウクライナ戦争から考える

● 2月24日に始まったロシアのウクライナ侵略。21世紀になぜ国家による軍事侵攻が起こるのか、想像もできませんでした。それは、ロシアによるウクライナへの領土侵略、国家主権の侵害にほかならず、国連憲章・国際法違反の行為です。それが半年以上も続くとは、人類の二度にわたる過ち、世界大戦の反省はどこにいったのでしょうか。

● ロシアは国連安保理常任理事国です。ロシアがこの侵攻を始めた理由は、「もともとウクライナはロシアの領土であり、ロシア系住民をウクライナのネオナチの虐殺から救うために取った正義の戦いである」と。これは戦争ではなく、”特別軍事作戦”だから国際法違反ではないとプーチンは主張します。さらには、核兵器の使用もあり得ると核の威嚇をしています。『侵略戦争は、つねに正義のためと言って始まる』ことを、ここでも示しています。

● その戦争の現実は何を示していますか。住宅は砲撃やミサイル攻撃で破壊され、さらには病院や学校といった非軍事施設も標的にされています。ウクライナからの避難民は国民の1/4に上ります。さらにはそこに住む住民が拷問され、ついには後頭部を撃ち抜かれるという虐殺・戦争犯罪もロシア支配地域であります。女性へのレイプもあります。軍事作戦の目標は、恐怖心を植え付け反抗心を無くさせることです。まさに住民の日常生活を破壊しつくすことが、軍隊の日常なのです。

● 今までの戦争と違うところは、我々は毎日TV のLive 映像で、戦争の現実を見せられています。しかし情報戦の中、自分達に都合の良いフェイクニュースが氾濫しています。

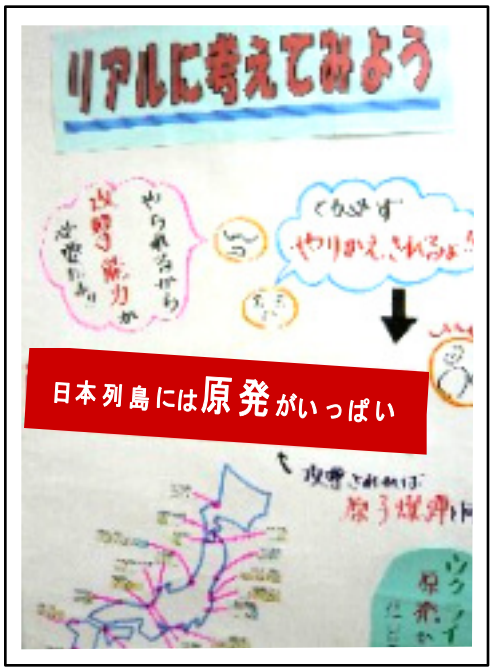
徴兵されるのは、絶対にイヤです。

● 今年の展示には、ウクライナの住民避難の様子、破壊された住宅、侵攻する軍人の笑顔などの写真を10枚見てもらい、感想をシートに書いて貼り付けてもらいました。
それを一部紹介します。　（矢内一弘）

■ 普通に暮らしていた人々の日常が、突然壊されてしまう。理不尽さが、やりきれない。
■ 街を壊し、命を奪う。そこから何も得るものはない！
■ 私の子どもの頃、爆弾は上から落ちてきた。今のウクライナ、ミサイルは横から飛んでくるから始末が悪く本当に怖い。
■ 外交の失敗が戦争!!より強力な武器で攻撃。最後は核兵器!!地球は悲鳴を上げている。

⑧ リアルに考えてみよう ～ 戦争と原発

ウクライナの戦争で「軍備はもっと必要だ」「攻撃能力が必要だ」という主張が声高にされるようになりました。一方で「核のない世界を一刻も早く」という流れも進んでいます。 この相反する主張を比較して、あたかも軍備が現実的で、安全を増すことであり、核をなくすことは「きれいごと、理想論、平和ボケ」のように言われることがありますが、本当にそうでしょうか。リアルに考えてみたいと思います。



日本では50基以上の原発が列島を取り囲むように並んでいます。

軍備」「攻撃能力」というと一見それだけ相手より強くなったような気がします。けれどそれは攻撃したりされたりすることが前提です。具体的にリアルに予想してみれば、原発が攻撃されたとき、それは私たちに向けた核兵器に早変わりするといって過言ではありません。自爆装置がたくさん埋め込まれているかのようです。

国土が破壊され、汚染され、国民が死に絶えても、国が勝つか負けるかという無限の競争を辞さない道・・・。この道は日本にとって不可能な道と言えるのではないでしょうか。

戦争体験者の方々の口からは「戦争で犠牲にな

るのはいつも弱者」という切実な言葉が出てきます。ウクライナを見ても同様です。おおぜいの国外避難民。脱出を禁止され総動員される男性・・・。

私たち地球上の99％を超える庶民にとっては、戦争の勝ち負け以前に「戦争になってはいけない」ことが大前提ではないでしょうか。

戦争は地震や台風と違って、そこに至る前に人間の力で働きかけることができます。そういう地道な外交、政治を本気で求めていくことがリアルに生き延びる道であるように感じます。憲法9条は生き延びる道。そして緊急事態条項は9条を無力化してしまう危険を持っています。

本多百合香

⑨ 平和を考える絵本

2019年に西内ミナミさんが作成して下さったリスト（別紙、当日配布）の中から13冊と、その後の2020～2022年に刊行された中から山田純子さんの協力で下記の12冊を加え25冊を展示しました。

■ ウクライナの昔話

①かもめのむすめ（オリガ・ヤクトーヴィチ 絵／松谷さやか 訳／福音館書店）

②てぶくろ（エウゲーニー・Mラチョフ 絵／うちだりさこ 訳／福音館書店）

③わらのうし（ワレンチン・ゴルディチューク 絵／内田莉莎子 文／福音館書店）

■ ウクライナの絵本（2022年6月刊行）

④戦争が町にやってくる（ロマニーシン・レシブ 作／金原瑞人 訳／ブロンズ新社）

■ 2022年刊行

⑤なきむしせいとく　沖縄戦にまきこまれた少年の物語（たじまゆきひこ／童心社）

⑥戦争をやめた人たち　1914年のクリスマス休戦（鈴木まもる 文・絵／あすなろ書房）

■ 2021年刊行

⑦秋（かこさとし 文・絵／講談社）

⑧子どもの本で平和をつくる　イエラ・レップマンの目ざしたこと
（キャシー・スティンソン 文／マリー・ラフランス 絵／さくまゆみこ 訳／小学館）

⑨アレッポのキャットマン（レイサム・バシャ 著／清水裕子 絵／安田菜津希 訳／あかね書房）

■ 2020年刊行

⑩あるひ あるとき（あまんきみこ 文／ささめやゆき 絵／のら書房）

⑪わたしに手紙を書いて　日系アメリカ人強制収容所の子どもたちから図書館の先生へ
（シンシア・グレディ 文／アミコ・ヒラオ 絵／松川真弓 訳／評論社）
⑫あの湖のあの家におきたこと
（トーマス・パディング 文／ブリッタ・テッケントラップ 絵／落合恵子 訳／あすなろ書房）

◆ 本のまわりには、いつも人（特に大人）がいっぱいで熱心に読んでいる姿が今年特徴的でした。
◆ ウクライナの事を思いながら感動したという感想を戴きました。

〈山北敦子　山田ヒサエ〉

⑩ 平和への思いを短歌に

用紙の上下の軸、工夫してありますね。墨痕もあざやか。あっぱれです。　T・T

「短歌の会」の展示について

ロシアのウクライナ侵略に対する一人ひとりの平和への思いを詠みました。条幅紙（画仙紙を縦半分に切った形）に墨字で力強く書かれた短歌は、とてもわかりやすく、見た人から共感の声が寄せられました。駅頭宣伝のとき、これを持って《スタンディング・アピール》 とても好評でした。

＊新日本婦人の会 杉並 短歌小組「あけぼの杉」の方々を中心に、このピースフォーラムに参してくださいました。　（山北敦子　担当）

［2］ イベントの報告

◆今年は記念講演は行わず、二日間に分けて、ドキュメンタリー映画を上映しました。それぞれの内容を簡単に記載し、参加された方の感想をいくつか紹介いたします。

◎ 8月6日（土）映画「ヒロシマへの誓い　サーロー節子とともに」

2021年核兵器禁止条約発効が実現。その大きな原動力として世界で最も尊敬される女性の一人となったサーロー節子の原点を探ったドキュメンタリー。13歳で被爆し、その後の人生の大半をカナダで暮らし、核兵器撲滅のための活動を続けるサーロー節子と、広島出身で被爆二世であるニューヨーク在住の竹内道が会った時からその旅は始まった。・・・・・

【感 想 】 35人参加

- 是非みたいと思いました。節子さんの揺るがない信念で、禁止条約ができました。日本人の願いだろうに、政府はいまだに署名しません。外国からは「日本の不誠実さ」を責められます。岸田が「橋渡しをする」なんて言っても白々しい!! 節子さんが言っていましたよね。主張することを！政府に伝え続けること!! みんなで動けば変われると信じて、と。勇気をもらった映画でした。
- 核兵器禁止条約の成立に本当に尽力された方のドキュメンタリー「ヒロシマへの誓い」を鑑賞でき（広島原爆投下の日）自分にとって平和を考える日になり良かったです。ＩＣＡＮは耳にしていましたが、世界中を巻き込んでの活動になったことは、喜ばしいことですが、ロシアの侵攻は許しがたいです。平和を心から望み、自分にできることを考えていきたいと思いました。

◎8月7日（日）映画 「カメジロー　沖縄の青春」

戦後の沖縄。米軍の土地強奪と人権じゅうりんに、断固として反対し、「土地代金を払え」「水代を払え」と叫んだ男・カメジロー。（瀬長亀次郎）

米軍の不当な裁判で刑務所へ送られながら、出獄後、那覇市長に当選し、民主主義と祖国復帰の旗を高くかかげ、民衆とともに沖縄の歴史と切り開いてきた一大叙事詩を、ドキュメンタリー・ドラマで描く。

【感 想 】 42人参加

● 辺野古新基地反対の県民投票の結果も、日本政府アメリカも、無視し工事を続けている。もとも太平洋戦争で多くの県民の命が失われ（本土の捨て石にされ）、日本に復帰してもアメリカ施政権の時と何ら変わらず、米軍基地は相変わらず減らず、本土の人は無関心。あるいは「沖縄県は基地があるから生活していけるんだ」と誤った考えや「自分の生活で手一杯の状況、沖縄どころじゃない」とか、他人事としか考えられない本土の人が、沖縄から米軍基地をなくせと思ってくれるまで、これからも仲間と共に頑張ろうと思います。私達に『正義と道理がある！』

●「民主主義を守る」不屈の生き様に感動しました。 ウクライナの事や状況を受けて、「軍事費を増やせ」等の声も上がっていますが、平和的な解決こそが一番大事と再認識しました。小さな声も連帯する事で大きくなる事を信じて、出来る事から続けたいと思いました。

● 今、日本はこの映画が主張している「民主主義」がおびやかされています。カメジローさんの不撓不屈の魂には全く及びませんが、少しでも今の状況から平和の世に、と願うとともに1歩でも行動したいと思います。

＊以上は産業館地階の集会室を使用して行った。別に展示室ではテレビでBDR画像も放映した。 （佐々木 征）

〔3〕 感想文 抜粋

8／6（土） 展示 71人

● 久しぶりにお邪魔させていただきました。原水禁運動を作っていくために、杉並の地域が非常に草の根の運動の盛んなところであったことを、あらためて感じました。そしてその草の根の力が今につながっていること、今までの住民の運動・市民の運動の力が、今の区政の実現にも、このピースフォーラムの開催にも、厳然と根付いていることを実感しました。

● 今年も新にウクライナ問題を追究した展示物があり、毎年の事ながら中心になって進められている方々に敬意と感謝の念で一杯です。一人でも多くの方にこのピースフォーラムに参加して欲しいと切望します。詳しい説明もありましたが、原水爆禁止署名運動発祥の杉並として、もっともっと平和のことを進めたいと思います。

8／7（日） 展示 98人

● 原爆って絶対なくさないとダメですね。今回のフォーラム、本当に良い展示物ですね。特に絵本は読んでいて見ていて涙が止まりませんでした。国の指導者たちは本当に考えて欲しいです。人間の幸せを考えて、戦争は止めて欲しい。

● サロー節子さんのメッセージをよく読みました。全世界の人々に届けたいです。特に、日本の政治家に。核の傘の下にと言っている人に。私たちはもっともっと声を上げなければなりません。あの日、犠牲になった人々の代わりに。聞こえ、視界が鮮やかになってくるのを感じた」という、徐々に変わっていった感覚が素晴らしいと思いました。伝える努力をあきらめない被爆者の方の思いを強く感じました。

● 平和について、戦争について、今こそ真剣に考える必要があると思います。日本政府は核兵器禁止条約に早く批准すべき。耳ざわりのよい言葉ばかり発信しないで、自国の歴史をしっかり考えて欲しい。マスコミも下手にあおるような報道はやめてほしいです。

〔4〕 いろいろな資料

事業決算書

2022. 10. 28

収入金額

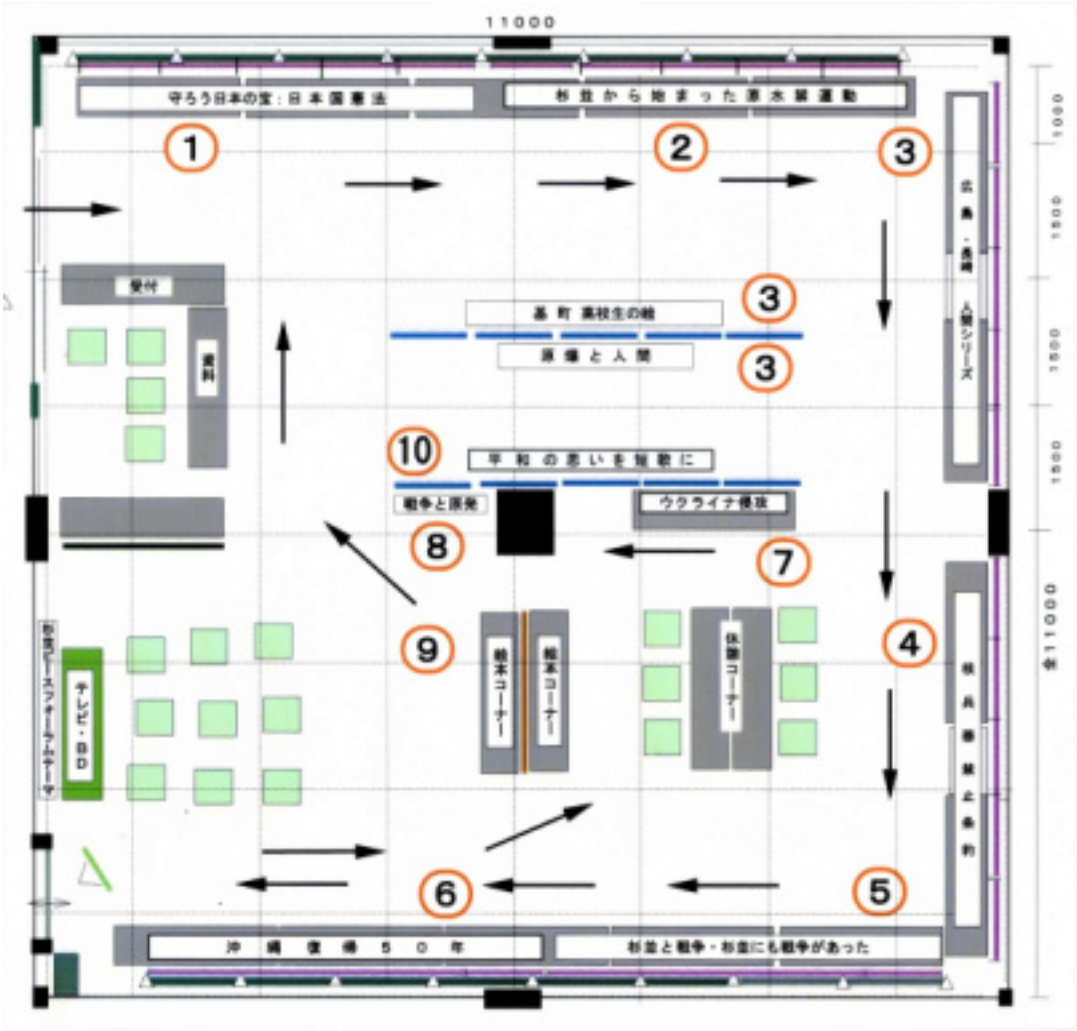
科　目	内　容	金　額（円）
団体負担	前年度繰越金	241，322
参加費（入場料）	@　0　×　＝　無料	0
賛同金	12団体、個人43人	165，000
会場カンパ		23，700
書籍売り上げ		8，500
計		438，522

支出金額

科　目	内　容	金　額（円）
謝礼・出演料等	ブルーレイ借賃、運搬謝礼	62，232
印刷製本費	報告集作成	10，000
通信費		0
会場費	実行委員会、当日分	28，650
事務費	文具費、紙ロール、コピー代	29，712
交通費		0
印刷費	チラシ、パネル代	55，831
（小計）		（186，425）
残金	次年度繰越金	249，097
計		438，522

（山北　敦子）

展示室設営図



展示で工夫したこと

◆壁面に使用する台紙は「ニューカラーロール紙」900×10ｍ を使用した。

◆可動パネルの上部に小割の木材をガムテープ止めし、台紙を画鋲止めにした。

◆コーナー別に台紙の色をかえた。南北面 999×1570　次年は 900×1670 に
　　東面は机の上に段ボール板を立て、台紙は 900×1440 クリップ止め

◆南北面への展示は上記台紙を１テーマで６枚　東面は１テーマ５枚とした。

◆東面の机２脚の間に段ボールで（橋渡し）のせた。次年はベニヤ板に。

◆小割の取り付け、画鋲打ちは作業が高所になるので若い人の手助けが必要。
　今年は川崎さんに活躍していただいた。

2022 実行委員会の活動と反省

開催日程

第1回 1/28 、 第2回 2/25 、 第3 回 3/25 〈阿佐谷区民センター〉
第4回 4/22 、 第5回 5/27 、 第6回 6/24 〈新阿佐谷区民センター〉
第7回 7/12 〈高円寺北集会場〉、 第8回 7/27 〈阿佐谷区民センター〉
第9回 9/16 、 第10回 10/28 〈阿佐谷区民センター〉
作業日 7/22 、23 、30 、8/1 〈都教組杉並支部〉

実行委員会 反省・まとめ

1, テーマは

●ウクライナ問題と重なる時期で、沖縄復帰50年という年でもあり、良いテーマだった。
●「核も戦争もない」は理想のお花畑だとする「軍備が現実的」という世の中の考え方に対して、もっともっと論理的に迫る全体の流れができればよかった。

2. 開催日程を8月6・7日の2日間にしたことについて

●コロナの蔓延と猛暑の中できつかった。涼しい時期だったら3日間開催にしたい。
●8月の2日間か3日間が良い。 ●2日間が精いっぱい。涼しい秋に

3.会場を産業商工会館にしたことについて

●産業館展示室は、展示のしやすさは他のところより良い。
●これまで使っていて様子が分かるので、やりやすかった。
●地下はコロナでは難しさがあるが、映像上映は30名限定で予想より良くできた。

4. 講演をやめて、映像上映にしたことについて

●コロナ感染拡大もあって、映画上映でよかった。
●映画に絞ってよかった。コロナとの関係で、講演は無理か
●サーロー節子さんの「ヒロシマへの誓い」今の時期に見せていただき、とてもよかった。

5. 各自の展示内容・作成について

●広島基町高 生徒の絵、被爆の実相を次世代につなぐ活動が素晴らしい。(2名)
●見やすく、今の政治状況を見通すような展示が多かった。

6. チラシ・広報について

●ポスターとして使うことを考慮して。文字が多く、わかりにくい。

7. その他

●日本のアジアに対する戦争責任と反省、中国・韓国北朝鮮との平和と連帯を課題にしたい。
●展示室でのテレビ上映はやめた方がよい。

ピースフォーラムチラシ
表

ピースフォーラムチラシ
裏

チラシデザイン
さとう やすなお

すぎなみピースフォーラム　２０２２　実行委員会

事務局長：　矢内　一弘　　次長：佐々木　征　　会計：山北　敦子
顧　　問：　井上惣佐衛門　　岩崎　健一
実行委員：　赤坂　和子　　加藤　惠子　　金田　克彦　　久保田朋子
佐藤　康尚　　竹内ひで子　　高木　堆芳　　中島　忠夫
早川美和子　　本多百合香　　山田ヒサ江

連絡先　：　〒168-0065　杉並区浜田山4-18-11
矢内　一弘　　Tel/Fax　03-5938-3846

報告集装幀：印刷　たかぎ たかし

元のページに戻すには パソコン画面上部の ← をクリックします。